

1 生徒の実態 (実態把握・調査の結果の分析)

(1) 生徒の実態

- ・1年生→全体的には授業規律も守られ、意欲的に勉強に取り組もうとする姿勢は見られる。復習をしてこないため、次の授業との流れや、関係性が結びつかない生徒を多く感じる。
- ・2年生→授業規律はしっかりと定着し、発問に対する周りのフォローもでる。全体に対する発問には決まった生徒が挙手・発言するため、他人まかせな部分も見られる。
- ・3年生→受験を意識した意欲的な取り組みが見られる。社会的事象の関心が低く地理や歴史との背景的部分に定着させておくべき知識の差を感じる。

調査結果の分析

- 1・2年生→学力調査の結果から、全体的に知識の量が少ない。平均やや下の生徒が多く、応用問題や地図・資料読み解く力が弱い。宿題を出さなければ家庭学習を やらない、出来ない生徒が多い。また保護者の意識も宿題を希望する声が多い。
- 3年生→公民分野に入り、日本の社会の仕組みと自分たちの生活する地域との差があるため、頭では理解していても、実感が薄い生徒が多い。

2 指導上の共通課題

- ・単元の目標をはじめ板書をわかりやすく書く。
- ・勉強の仕方やまとめ方の指導を行なう。
- ・基本用語の知識の定着と理解を深める。
- ・2・3年生は既習した学習を現在の単元や社会事象を意識し、思考力を深める。
- ・家庭学習の定着。

3 授業改善の視点とその方策

1年生・2年生

(1) 授業改善の視点

- ・基礎学力の徹底を図り、思考させる事を大切に取り組む。
- ・「分かる」事を多く体験させ、関心や意欲をもって自主的に取り組むようにする。
- ・基礎学力の不十分な生徒に対する指導の工夫

(2) 方策

- ・本時の目標を明確にし、板書は自主学習がしやすいように配慮する。
- ・教科書をしっかりと読み、重要用語を確認するとともに、読み込んだ内容を把握する力を育む。
- ・小単位ごとに用語の確認テスト、ワークブックで理解度の確認を行う。
- ・発問後、分からない場合は教科書・資料を確認する習慣をつけさせる。
- ・基礎学力の不十分なせいには、用語の確認テストの復習や授業中の取り組みの補助を行い、意欲的に学習に取り組む姿勢を育む。

3年生

(1) 授業改善の視点

- ・公民は日本国憲法の意味と役割を踏まえ、民主的な考え方の基礎を理解できように取り組む。
- ・社会的現象の背景と、自分たちの地域の環境との差がある場合は、ICTを使い全体のイメージを定着させる。
- ・基礎基本の定着の徹底
- ・学力の不十分な生徒に対する指導の工夫

(2) 方策

- ・本時の目標を明確にし、板書は自主学習がしやすいように配慮する。
- ・教科書をしっかりと読み、重要用語を確認するとともに、読み込んだ内容を把握する力を育む。
- ・小単位ごとに用語の確認テスト、ワークブックで理解度の確認を行う。
- ・発問後、分からない場合は教科書・資料を確認する習慣をつけさせる。
- ・基礎学力の不十分なせいには、用語の確認テストの復習や授業中の取り組みの補助を行い、意欲的に学習に取り組む姿勢を育む。
- ・受験に向けて、過去問題に取り組む、試験の傾向や学習の取り組みの意識を高める。